

科技高 いきもの記

Vol.65 2022.11.12

生物教員 佐藤龍平

いったい何匹いるんだ？！ かいぼりと外来生物

Vol.64で紹介した猿江の工事に関わる方々からのお誘いで、なんと今回、猿江公園※の池の「かいぼり」に参加させていただくことになった。「かいぼり(掻い掘り)」とは**池の水を抜いて環境を整える**ことであり、水位を下げた池で生物をレスキューし、外来種の捕獲、池の底の天日干し(外来植物等の駆除)などを行う。猿江の池はウシガエルなどの外来種が多いため、駆除作業はとても重要だ。一方で、かいぼりの作業自体が在来種へのダメージにもなるので、十分な知識と慎重な作業が必要とされる。

かいぼりは平日に行われたので、作業自体にはほとんど参加できなかったが、授業後に生徒と急いで駆けつけてみると、環境調査会社のアイザワさん、工事会社のサカイさんを始めた皆さんの方が待っていてくれた。**みんな泥だらけの胴長姿だ。「カムルチー」**いたよー。」と言って見せてくれた大きなバケツには、**なんと60cm近くあるライギョが！**また、他のバケツにはおぞましいほど大量(数百匹?)のオタマジャクシが。これは特定外来生物のウシガエルだ。しかも、「**今回捕獲したオタマの『一部』です。**」と言われて唖然としてしまった。これで全部じゃないのか…。他にも、**たらいに山盛りのアメリカザリガニ(緊急対策外来種)やカダヤシ(特定外来生物)**も捕獲されていた。池にはまだまだ捕まえきれないものもたくさんいるようだ…。ここまで外来種の個体数が多いとは。甘く見ていた…。

タツキ、チシュウ、ハルタも胴長を借りて(ハルタはMy胴長を持参!)、ほんのちょっとだけかいぼり体験をさせていただいた。以前タツキが発見したハナガメ(特定外来生物)やスッポンを見つけようとしたが、結局見つかることはできなかった。水を抜くと言っても全てを抜くわけではないし、泥に潜ったり岩の隙間に逃げてしまうものもある。**外来種は入れるのは簡単だが、駆除は本当に大変なんだ**と思ひ知る。生き物は**軽い気持ちで飼ってはいけ**ないし、**絶対に逃がしてはいけ**ないと改めて痛感する経験だった。今回駆除された外来生物たちだって、彼ら自身は頑張っ

※猿江公園は正式には猿江恩賜公園といいます。

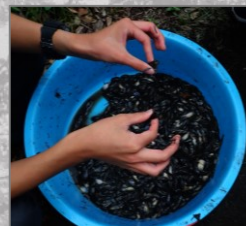
て生きているだけだし、駆除されるいわれはない。すべては人間が蒔いてしまったタネだ。皆さんも、生き物を飼育する際はくれぐれも気を付けてほしい。

【かいぼりで採集された外来生物(一部)】

※特定外来生物は生体の無許可での移動、飼育等が禁じられています。



アメリカザリガニ(緊急対策外来種)
1927年にウシガエルのエサとして導入された。水草を切ってしまう水生昆虫等のすみかを奪い、水質を悪化させる。



数百匹のウシガエルのオタマジャクシ(特定外来生物)
1918年に食用にするために日本に持ち込まれた。成体は巨大で、大きな口で他のカエルや昆虫などを食べてしまう。数千~数万の卵を産み、どんどん増えてしまう。オタマジャクシもなんと最大15cmになる。



カダヤシ(特定外来生物)
ボウフラ駆除のために人為的に移入された。汚染に強く爆発的に増加している。今回、猿江の池で数万匹捕獲された。



↑水を抜いた猿江公園の上池



60cm近くあるライギョ(カムルチー) 中国原産

大きな口と鋭い歯で在来魚やカエル、昆虫などを食べてしまう。もとは観賞用の飼育個体だろう。飼いきれなくなっても絶対に逃がしてはいけない。生物の飼育には責任を持とう。



採集した生物を仕分ける。素人では分からないレベルの違いで見分けて種を分別する。超大変な作業! 1日では終わらないこともあるそう。



アイザワさんから、一時保護している生物たちを紹介していただいた。池に水を戻した後にこれらの生物は池に戻される。



胴長を着て池に入る。かいぼりの体験をさせていただいた。ヘドロで足が滑る!